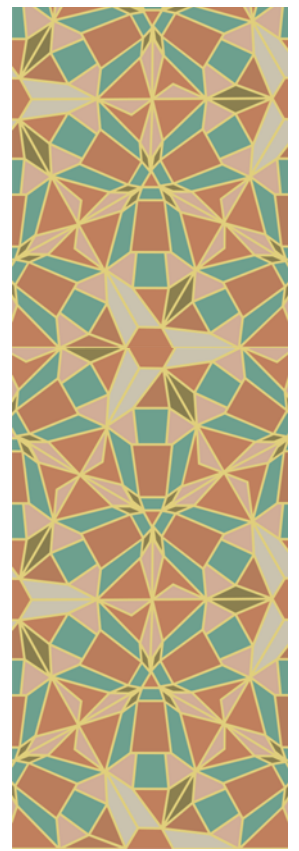
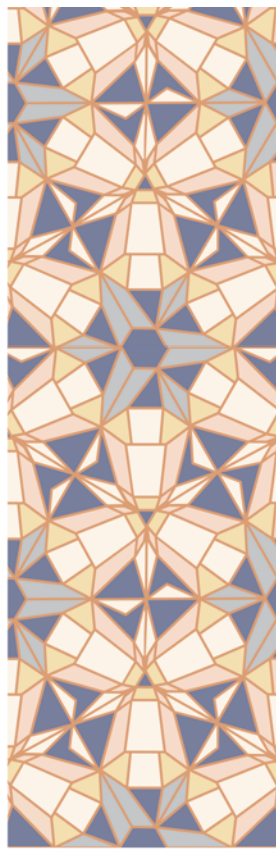


# 矢文に雪洞

ほん

ぼり



## 六角形が表す秩父夜祭

この銘仙柄は、秩父にある様々なモチーフを表現する六角形を主体とした数種類の図形で構成しています。

そもそも六角形は、蜂の巣や花卉、雪の結晶に柱状節理（玄武洞などでみられる石柱）など、自然界にごくありふれたものであり、安定と調和を表しています。

そして、秩父夜祭は、数多くの「六」に彩られているのです。

絢爛豪華な二台の笠鉾、四台の屋台は合わせて六基、その数は不変のもので、これからも変わることはありません。煌びやかな笠鉾、屋台を幻想的な灯りで包む雪洞（ほんぼり）は、全て六角形です。

秩父神社に祀られている妙見様が乗るのは、玄武という亀と蛇が合わさった霊獣であり、その甲羅は六角。12月3日、御旅所の亀の子石でそのお姿を現します。

## 妙見様の想いを乗せた「矢文」

矢羽は、言わずもがな秩父銘仙の伝統柄ですが、当デザインでも矢を思わす形を組み込んでいます。

秩父夜祭には、年に一度、秩父神社の女神である妙見様が、武甲山の男神との逢瀬を交すという伝説があります。

この矢は矢文として、妙見様が放つ、武甲山の男神への恋文を表現しました。またこの矢には、妙見様が秩父平氏の信仰を集めた武神であることから、矢尻（鎧通し）がついています。

さらに、秩父の妙見様は養蚕神でもあり、秩父銘仙で表現するにはこれ以上に相応しいものではありません。

余すところなく秩父夜祭を表現したこの古くて新しい銘仙柄を、是非ご活用下さい。



～ちなみに～

冬の秩父夜祭と対比される夏の秩父川瀬祭では、荒川の清らかな水で禊を行う「お水取り」という行事があります。  
若衆が一条まとわぬ姿で川へ入り、「六根清浄」を唱え、私欲や煩惱、迷いを引き起こす目・耳・鼻・舌・身・意の六つの器官を祓い清め、悪疫退散を願います。

